

2017年度 国内研修 研修成果報告書

私はボランティアサークルごまちゃんの一員として、2月19日（日）から24日（土）までの6日間、秋田県藤里町で傾聴ボランティアや地域住民との交流を主とした様々な活動を行った。藤里町は、人口3375人、面積282km²で秋田県の北部に位置している小さな町で、高齢化率は44.9%と非常に高くなっている。この数字は全県2位である。少子高齢化社会・過疎化が進んでいる地域だからこそ、地域福祉振興の中心となっている社会福祉協議会と地域住民の結びつきがとて強いことが大きな特徴であると感じる。また、社会福祉協議会では同じく地域の問題となっている引きこもり支援にも力を入れている。

そんな秋田県藤里町にボランティアサークルごまちゃんは年に2回、夏と冬に訪問している。その活動は今年で13年目であり、藤里町におけるごまちゃんの知名度も高くなってきており、秋田県の新聞や、藤里町社会福祉協議会のホームページに取り上げられることも多くなってきている。そのせいもあってか、「今年もごまちゃんが来るの楽しみにしてたのよ」と地域住民の方に言っていただける機会も増えたように思う。藤里町にとって、ごまちゃんの訪問は一種の恒例行事、伝統になっているのだ。

1年生の冬、2年生の夏、そして今回3回目の訪問をして感じた良いこと、悪いことについて以下でスケジュールに沿って述べていきたいと思う。

①2月19日

前日に夜行バスに乗り、早朝に秋田県に到着した。この日はNPO 元気塾という藤里町の移住・定住の振興について取り組んでいる方の講演会と毎年恒例の一人暮らし高齢者のお宅訪問を行なった。

NPO 元気塾での藤原さんのお話を聞き、改めて改めて他の地域出身の人・若者という言わゆる「よそ者」が地域に入っていく、そこで暮らすという難しさを感じた。過疎化が進んでいる地域では、町おこしのために若者を参入させようと取り組んでいるところもあるが、長い目で見たときの定住となった場合は、そんなに簡単ではないことを知った。

その後の独居訪問では、一人暮らしの男性高齢者のお宅訪問をさせて頂いた。当初は玄関前の雪かきをしてから、とのことだったが自宅前は綺麗に除雪されていたため、主にお話をさせて頂いた。その中で気になったのが、「なかなか地域（社協などが主催しているレクリエーション等）に出る機会がない」といった言葉である。一人暮らしの高齢者の方の中には、ご近所との交流があり、地域のイベントにも積極的に参加され、毎日イキイキと過ごされている方もいる。その一方で、特に男性に多いのかもしれないが、近所付き合いがあまりなく、また冬場は外出するのも一苦勞であった場合、地域の中で孤独感を感じているという現状である。わたし達ごまちゃんの訪問は毎回1時間程度であり、もちろんその1時間の交流も大切であるが、わたし達がない時間の方が圧倒的に長いわけで、そうした方々が地域に出て行くきっかけ作りを、ごまちゃんが出来れば良いなと思った。またそれを今回より感じたため、来年からの取り組みで何か企画出来れば良いなと思う。

②2月20日

この日のスケジュールは、金沢地区での交流会と雪中キャベツ掘り体験である。

金沢地区での交流会は毎年恒例であり、地域の方々からとても歓迎されている。この日も、上茶屋・金沢・真名子の3集落から総勢11人の高齢者の方々が集まり、ごまちゃんメンバーとの交流会を行なった。まずごまちゃんメンバーからの出し物である、よっちょれ・炭鋤夫節・二人は若い・ドンパン節と、東京で練習してきた踊りを披露した。その際も、住民の方々も一緒に混ざって踊るなど、歌や踊りを通じてコミュニケーションを図った。その後は、普段の暮らしや地域の行事、昔の遊びや田植え・稲刈りといった地域で行われていた農業、雪遊びの様子などを話題にしておしゃべりを弾ませた。

午後からは、雪中キャベツ掘り体験に参加した。東京では体験できない貴重な体験をすることができた。

③2月21日

この日は、地域ののど自慢倶楽部と藤里町社会福祉協議会ディサービスに参加した。

午前ののど自慢倶楽部は、毎年ごまちゃんがレクリエーションを企画していた源さん倶楽部というものが母体となったものである。

今回初めて参加させて頂いたが、集まっている地域の方々は、去年私たちが参加した源さん倶楽部の方々もいて話が盛り上がった。

また、歌という共通の話題もあつてか、おしゃべりの方も弾んだ。最後は会場に集まっている参加者全員で歌うなど、会場は熱く盛り上がった。その後、藤里町社会福祉協議会のディサービスに参加させて頂いた。こちらも毎年恒例であり、去年交流した方々とも再会することができた。普段私たちごまちゃんは、東京都八王子市のディサービスや特別養護老人ホームでの傾聴ボランティアを行なっているため、そこで培ってきた受容・共感・傾聴といったスキルを発揮することができた。最後は利用者の方々の前で、よっちょれ・ドンパン節・二人は若い・炭鋤夫節を披露した。みなさんの表情や雰囲気が明るくなっているのを感じ、私達も達成感を味わうことが出来た。

④2月22日

この日は地域の引きこもり問題に取り組んでいる菊池まゆみ氏の講演会への参加とユニカールと呼ばれる体育館で行なっているカーリングのようなレクリエーションに参加した。

まず午前中の菊池まゆみ氏の講演会はとても貴重な体験であった。東京にいては、引きこもり問題に取り組み、そして成果を出した菊池氏の話というのは中々聞けないからである。まず、2010年にスタートした「こみっと支援事業」は、藤里町に暮らしているひきこもる人たちに家庭訪問を繰り返し、今行っている就労支援事業を紹介するというのが主な事業内容である。カウンセリングや相談活動で「原因」を探りはしない。地域の引きこもってしまった人たちが興味を持って家から出てくれば、福祉の拠点「こみっと」で、一緒に事務補助や農作業、そば打ちに取り組んでいる。また菊池氏の言葉で印象的だったのが、『今後の目標は、ひきこもる人たちの支援にとどまらない「町民全てが生涯現役を目指せる」町づく

りだ。藤里町の高齢化率は年々上昇している。一握りの若い人だけが頑張るのは違う。意欲さえあれば誰でも参加できる仕組みづくりが必要』というものである。私たちも福祉を学ぶ学生として、考えていくべき問題だと感じた。

午後からは、地域の体育館で行われているユニカールといった室内バージョンのカーリングに参加した。去年も参加させて頂いたため、その際交流した方々と再会することができ、またみなさんが元気で楽しんでいる様子からは私たち学生がパワーをもらった。

⑤2月23日

この日は、地域の体育館で行われている熟年バレーに参加して、午後はこの数日間で交流した地域の方々や藤里町社会福祉協議会の職員の方々を招いて食事をしながらの交流会を行った。

午前の熟年バレーは、毎年ごまちゃんと対戦するのが恒例であり、今年も試合に招いて頂いた。バレーで盛り上がったのはもちろん、休憩中にはストーブをみんなで囲み、輪になっておしゃべりを楽しんだ。

午後の食事は、今までお世話になった方々や知り合った方々ともっと交流をしたい、また新たな住民同士のつながりを増やすことが出来たらといったごまちゃんの想いから行なった今年初めての企画であった。結果的にみなさんから「今日は楽しかったよ」「また秋田に来てね」等の言葉をかけてもらい、大成功を収めた。この試みは来年以降も続けていきたいと思っている。

最終日の2月24日はごまちゃんの自由行動だったため、内容は割愛する。

今回の秋田県藤里町訪問を通じて、改めて感じたのが今後も藤里町と交流していきたいと思ったことだ。決して観光名所があるわけでもないし、学生みんなを惹きつけるようなものがあるわけではないが、何より地域の人々の温かさがここには存在している。今後も秋田県藤里町とボランティアサークルごまちゃんとの交流は続けてほしいし、後輩たちにはこの訪問の中でたくさんの方々のことを吸収してほしいと思う。

最後に、そう思わせてくれた秋田県藤里町の方々、また今回の訪問に携わった関係者の方々に感謝を述べたいと思う。